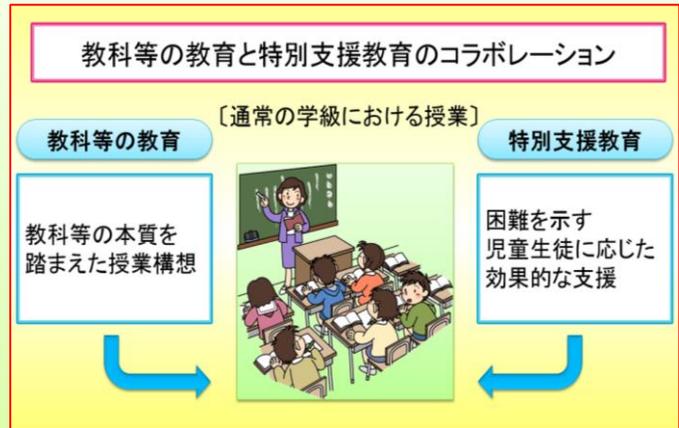


通常の学級における ユニバーサルデザインの視点を 生かした授業づくり

全ての児童生徒が「分かる・できる」授業を目指して

文部科学省の調査では、学習面や行動面で著しい困難を示す児童生徒が、通常の学級に約6.5%在籍していることが報告されています。

このような状況に対応するためには、教科等の教育と特別支援教育で培ってきた授業づくりの方略を生かし、通常の学級に在籍する全ての児童生徒が「分かる・できる」授業の仕組みづくりが必要です。



ユニバーサルデザインの視点を生かして授業を変える

教科等の教育と特別支援教育で培ってきた方略を授業づくりに取り入れるための視点がユニバーサルデザインの視点です。

教科等の教育では、教科等の本質にせまるために、主に本時のねらいを絞ったり、授業展開の筋道を明確にしたりして、児童生徒にとって分かりやすい授業を構想してきました。

また、特別支援教育では、児童生徒の困難さに応じて、情報を絞ったり視覚情報を与えたりしてきました。

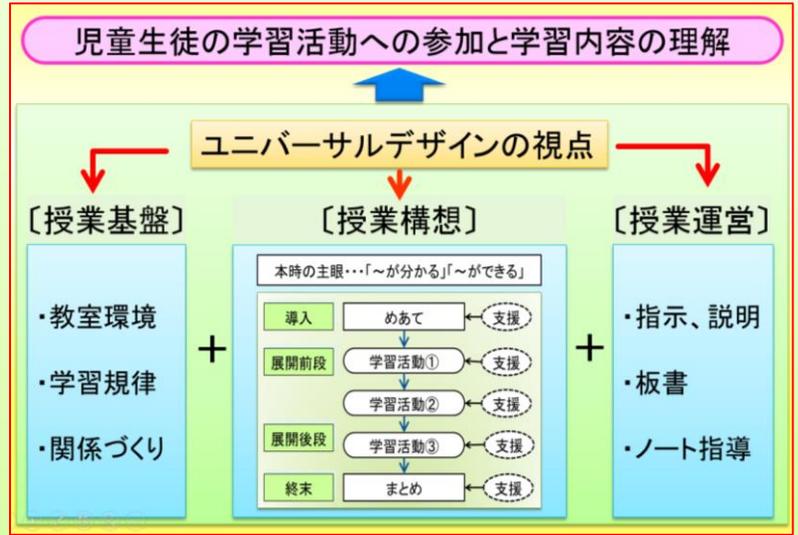
これらを「シンプル」「クリア」「ビジュアル」「シェア」という4つの視点で整理し、授業づくりに生かすことで、児童生徒にとって分かりやすい授業に変わります。



ユニバーサルデザインの視点を生かした授業づくり

ユニバーサルデザインの視点を「授業構想」「授業基盤」「授業運営」に取り入れながら、全ての児童生徒が学習活動によりよく参加し、学習内容をよりよく理解できる授業を目指すのが、「ユニバーサルデザインの視点を生かした授業づくり」です。

児童生徒が学習活動によりよく参加し、学習内容をよりよく理解するためには、教科等の本質を踏まえた「授業構想」を軸とし、授業の前提となる「授業基盤」と授業場面における「授業運営」を工夫する必要があります。



ユニバーサルデザインの視点を生かした授業構想

教科等の本質を踏まえた授業の構想

特に重要となるのは、シンプル・クリアの視点です。単元の指導内容を教材解釈に基づいて分析し、本時の指導内容を選定すること、本時のねらいをできるだけ具体化することが大切です。

本時のねらいの焦点化

シンプル

小学校 第3学年 国語科 「すがたをかえる大豆」(説明文)

【本時のねらい】

筆者の主張を分かりやすく伝えている筆者の工夫を読むことができるようにする。

【焦点化した本時のねらい】

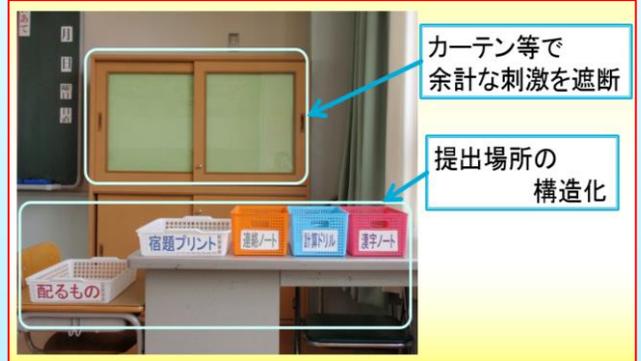
元の大豆の姿から段々と姿が変わり、くふうが段々と難しく特別になるように事例を並べて、昔の人々の知恵の素晴らしさを分かりやすく伝えている筆者の工夫を読むことができるようにする。

- 1 指導内容を分析し、本時のねらいを絞る。(シンプル)
 - ・学習指導要領を踏まえて単元の指導内容を絞る。
 - ・本時の指導内容を具体化し、ねらいを焦点化する。
- 2 本時のめあて(学習課題)を焦点化する。(シンプル)
- 3 児童生徒の思考過程を踏まえた指導過程を構築する。(クリア)
- 4 必要に応じて、学習活動に話合いの場を位置付ける。(シェア)
- 5 必要に応じて、言語情報を絵や動作などに置き換える。(ビジュアル)

ユニバーサルデザインの視点を生かした授業基盤

授業の前提となる環境の調整

教室などの学習の場で、児童生徒が受ける刺激の量を調整したり、学習活動のルールを提示したりして環境を調整します。また、学級の雰囲気づくりを大切にします。



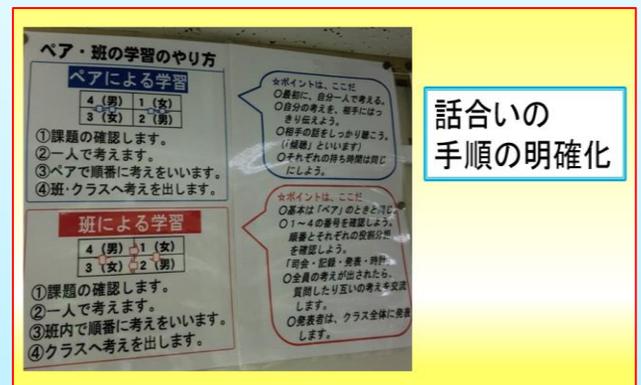
(例)

- 教室内の掲示物をシンプルにしたり、物音を少なくしたりする。
(掲示数の制限, 秒針音のない時計, 椅子の脚のテニスボールなど)
- 学習用具の整理整頓に努めており、所定の場所が決められている。
- 黒板は、常にきれいにしている。
- 「学習のルール（発表の仕方, 学び方など）」を写真や図などで示す。
- 一人一人の児童生徒が認められる場を設定している。

ユニバーサルデザインの視点を生かした授業運営

授業場面における指導の技術

実際の授業場面で、教師の発問・指示を児童生徒にとって伝わりやすい言い方に変える、視覚情報を併用する、板書やノートの書式を決めるなど、情報の伝え方を大切にします。



(例)

- 一度に多くのことを説明せず、一つの事項を一つの文で話す。
- スケジュールや活動の手順、始めと終わりを明確に示す。
- 絵や図, 写真(画像), 見本などの視覚情報を提示しながら話す。
- 板書やノートの書式を決めておく。
- 話し合いのポイントや手順を示し、友達との学びを共有しやすくする。